

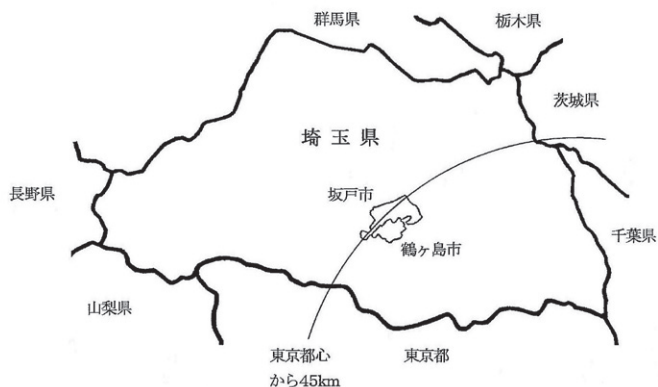
若い力を活用！大学連携による消防力強化の取組

埼玉県 坂戸市消防団

1 はじめに

坂戸市は埼玉県のほぼ中央、都心から45km圏の位置にあり、電車で都心に直結していることもあり、東京都のベッドタウンとして発展し、人口の増加に応じて商業施設や関連産業などの経済力が高まり、大学・高校などの開校に伴い学生数が増加してきました。

坂戸市内の沿線には、大学が3校、短期大学が1校、高校が4校立地し、城西大学、女子栄養大学や明海大学、東京国際大学等のキャンパス、グラウンドが複数あり、多くの学生が市内の駅を利用しているという特徴を持っています。



2 坂戸市消防団の現状

坂戸市は、昭和29年に坂戸町と4つの村が合併してできたという歴史があり、本消防団もその旧5町村ごとにそれぞれ分団があります。定員数は243名ですが、現在は231名で活動をしており、団員の平均年齢は35.4歳とかなり若い世代が多い消防団となっています。

しかしながら、働き盛りの年代が多い分、団員の約80%がサラリーマンということもあり、平日昼間の災

害で出動できる団員が限られてきているという問題が懸念されています。

3 坂戸市の取組「産学官の連携」

坂戸市では、今後、急速に進むことが想定される人口減少や高齢化に対応するため、市内の企業や大学などと、地域振興、安全安心など、多くの分野で連携をし、活力ある個性豊かなまちづくりに取り組んできました。

平成19年度から市役所に大学連携担当の部署を発足させ、市の事業や公民館事業などに多くの学生たちが参加、市の審議会などの委員に各大学の教員を委嘱、また、城西大学では「地域の行政」、「まちづくり」といった授業を行い、市職員が講義を行うという仕組みが出来上がりました。

また、健康づくりやにぎわい再生など、各大学の特色を活かした分野ごとの協定も数多く結ばれ、その中の一つに地震、台風等の災害発生時に際し、避難所としての大学施設の提供や学生ボランティアの派遣などを取り決めた「災害時における協力体制に関する協定」を市内3大学（城西大学・女子栄養大学・明海大学）と平成20年2月に締結しました。



授業での説明風景

4 大学との連携

全国的に消防団員確保が厳しい状況の中、本消防団においても、どのように団員を確保していくかを検討し、坂戸市においては、平日昼間に約1万人を超える大学生（城西大学約8,000人、女子栄養大学約2,000人、明海大学約500人）が通学をしており、課題である平日昼間における大規模災害時の団員不足を解消する方策として、坂戸市が取り組んでいる大学連携に着目しました。



市内3大学との協定書調印式

5 大学生機能別団員の導入

坂戸市が市内3大学と締結している「災害時における協力体制に関する協定」に基づき、各大学との交渉、打合せを開始しました。

機能別団員募集のチラシを作製し、各大学の担当窓口を通じて学生の団員募集を行い、城西大学においては、地域のイベントなどに参加することによりポイントを付与して単位を取得できる「まちづくり」授業へ赴き、消防団活動の説明、募集を行いました。

各大学も地域貢献の観点から、また、締結している協定での災害時の学生ボランティア派遣の取決めもあり、学生のリーダー的存在の育成の意味からも非常に協力的に賛同をいただきました。

その結果、3大学から男子10名、女子30名の合計40名（城西大学33名、女子栄養大学5名、明海大学2名）の応募があり、平成29年5月1日に辞令交付式を行い、大学生機能別団員制度をスタートすることができました。



辞令交付式



各大学代表者へ辞令交付

6 大学生機能別団員の内容

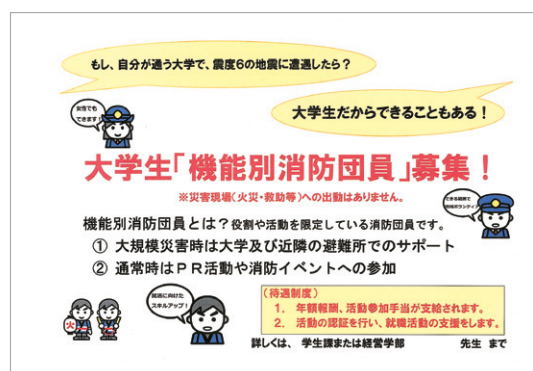
今回導入した大学生機能別団員制度の概略は下記のとおりとなります。

（目的）地震などの大規模災害時において、避難所運営のサポートに任務を限定して活動し、基本団員が一人でも多く災害現場で活動できる体制を作り、消防力の強化を図る。

（報酬）年額 20,000円

（費用弁償）行事・訓練 2,000円、会議 1,000円

（任期）5年未満



募集チラシ

7 今後の活動

今後の活動として平常時においては、消防行事（特別点検・消防出初め式）、市防災訓練への参加や街頭PR活動などを予定しており、先般、6月28日、29日には、当消防団女性部による普通救命講習と自主防災組織リーダー養成指導員による避難所運営ゲーム（HUG）訓練を実施しました。

今後も普通救命講習や避難所運営に関する講習などを継続的に行い、地域防災における技術と知識の習得を目指してもらい、いざという時に各大学においてリーダー的な存在になるよう指導していきたいと考えています。

今回、応募していただいた大学生たちで坂戸市在住者はおりません。しかし、現在、全国で大学生の消防団員が年々増加し、その大学生たちが卒業後、ふるさとなどで消防団活動や自主防災組織活動などに関心を持ち、地域防災のリーダーとなってくれることが期待されており、こうした大学生の消防団加入促進により全国の消防団の交流が進み、団員確保の一助になっていけばと願っております。



普通救命講習会



避難所運営ゲーム（HUG）講習会



集合写真